

感動!! 「風に立つライオン」 映画を鑑賞

(下) 会員 荒田 悠

「ガンバレー」「ガンバレー」は自分自身に言っているのだと航一郎は和歌子に向かつて答えた。彼女の目に涙が浮かんだ。

2カ月と言う約束で派遣された航一郎はアット言う間に帰る日が来た。子どもたちはトラックが見えなくなるまで見送るが、その中にはンドウングの姿はなく、その後彼は一層かたくなに心を閉ざすようになった。

それから2カ月後、危険なサバクを航一郎一人がトラックを運転してやってきた。

あまりの無謀さに院長は怒るが、うれしさがあふれた。子どもたちは大喜びで航一郎にぶら下がる。一人一人の子どもとハグし、フト遠



出典: [HTTP://KAZE-LION.COM/ABOUT/](http://KAZE-LION.COM/ABOUT/)

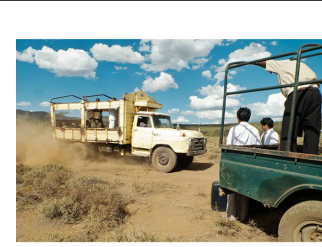
くを見ると、ンドウングの姿があった。航一郎はンドウングに近寄ると、彼は足を引きずって逃げ出した。彼を追い掛けて彼を抱きしめるとンドウングは声をひそめて泣き出し、だんだん大きな声で泣き出した。そして突然はき出すように、「僕はお医者になれますか？」

「僕は……。本
医者になりたい? : 「勿論なれるよ」
航一郎が彼を包み込むように肩を抱いて答えた。たんに「いい加減な慰めは言わないで……」
僕は9人の命を奪ったのだ!。僕は銃で9人撃った。人殺しだ!」和歌子はそこにしゃがみ込んで声をあげて泣き出した。

「僕は……。本
当に医者になれますか?」「おめいよ。おめいが望むなら、なれるに決まってるんだ。おめいが9人を死なせた。おめい、それなら……。おめい、これからは、おめいの一生をかけて10人の命を救わなくてはならない」と航一郎が言い終わると、ンドウングの驚いたような、嬉しそうな顔は、みるみる涙がほほを流れた。それを見た航一郎は満面に笑みをたたえて、「分かるだろう?……。いいか

い。未来はそういうためにあるんだよ」とンドウングは大声を出して泣き始めた。航一郎は彼を強く抱きしめた。私は感動で一緒に涙が流れた。航一郎は危険な地域に医療のため、イヤがるトラックの運転者に無理やり願って行く途中ゲリラの狙撃にあって死すと日本の恋人に電話が入る。彼女は父親のあとをついで、南の小さな島の診療所の医師として活躍していた。

あの心を閉じた少年が立派な医師になって東日本大震災にボランティア医師としてやってきたのだ。東北の地で、今は亡き、航一郎の似顔絵に、ンドウング医師は弟の「ミケランジェロ」ですと呼びかけた。死をもおそれず勇敢にそして無謀に演技する男の優しい笑



出典: [HTTP://KAZE-LION.COM/ABOUT/](http://KAZE-LION.COM/ABOUT/)

顔は見る私達の心をも癒やしてくれた。久しぶりに見た感動の映画であった。最後にオーケストラによる「風に立つライオン」の曲が流れていた。とても良かったねー。
(完)

医療の供給側とそれを受ける地域社会がお互いに理解を深めなければと感じました。浦河への旅は日高医療圏の地域医療を学ぶ、またとない機会でした。「浦河の医療機関を守る会」のますますの発展を願っています。
(逢坂)

編集後記
浦河赤十字病院は日高医療圏の地域センター病院です。救急は1次・2次救急医療を受け持ち、急性期医療や多くの診療科を持ち、看護学校の運営や地域の保健、福祉サービスなどを提供しています。医師不足が顕在化していて、夜勤明け後、すぐに日常の診療につくことも少なくない。また救急もコンビニ受診が少なくないとも言っています。